なんば戎橋筋界隈・歳時記

ミナミの街を彩る、折節の歳事。

花街の残り香漂う伝統。地域の気概で復活した神事。水都ならではの役者の顔見世。
何げなく過ぎていく1年に、折々の記憶を刻み込んでいく。
いつも見慣れた風景に、歴史と伝統がひと色の重みを添えていく。

商店街を盛り上げる、旦那衆文化。
今宮戎 宝恵駕行列

「ホエカゴ、ホエカゴ」

新玉の年を迎え、寒気ひときわ厳しい時節、大阪ミナミの街に威勢のよい掛け声が響き渡ります。街を練り歩くのはおよそ500人もの「今宮戎 宝恵駕行列」。紅白に彩られたかごには、黒紋付に白襟で盛装した芸妓や歌舞伎役者、松竹芸能や吉本興業のタレント、そして我らがミズえびすばしが乗り込みます。目指すは「十日えびす」の賑わいに沸く今宮戎神社――。

宝恵駕行列は、元禄時代、南地の芸妓が船場の旦那衆に代わって今宮戎へ参拝したことから始まった新春の恒例行事。現在、戎橋筋商店街をはじめミナミの商店街が参加する宝恵駕振興会が主催しています。伝統の継承だけでなく、上方文化を生かした地域活性化への取り組みとして評価され、平成23年(2011)にはサントリー地域文化賞を受賞。花街の面影をしのばせる艶やかな行列に沿道からも声が掛かります。

【日時】毎年1月10日頃
【ルート】旧南地大和屋前～今宮戎神社(往復)

230年ぶりに蘇った、水の祭礼。
難波八阪神社夏祭　船渡御

川面をわたる風が暑熱を帯びてくると、夏祭のシーズンです。江戸時代には、天神祭と並んで盛大に行われていたと伝わる難波八阪神社の船渡御。江戸中期以降途絶えてしまっていたところ、氏子衆や地元企業・団体の支援と熱意で、平成13年(2001)、230年ぶりに復活を果たしました。

戎橋のたもとで神事が行われた後、夕暮れを待って篝火や提灯が灯り始めると船渡御のスタート。約5kmにわたって、道頓堀川を20隻余の船団が行き交います。氏神の魂を載せた鳳輦船は荘厳に、手こぎのどんどこ船は勇壮に。川岸や橋上からは多くの人が水の祭礼を見守り、夏の一夜を堪能するのです。

【日時】毎年7月13日
【ルート】道頓堀川・湊町船着場～戎橋～日本橋(往復)

灯りが照らし出す、夜の街の風情。
道頓堀川万灯祭

道頓堀川の水辺遊歩道「とんぼりリバーウォーク」を提灯で彩る「道頓堀川万灯祭」。平成12年(2000)に始まった、大阪ミナミの活性化と水辺の賑わいづくりを目的に行われるライトアップ・イベントです。

7月から8月にかけて、千数百灯もの提灯が灯されます。時間は午後7時から午前2時まで。全てに防水型LED電球を使用することで、電力使用量を削減。節電を意識した取り組みも。

灯は、ときにネオンと交差して街の表情に微妙な濃淡をつけます。川べりをそぞろ歩いたり、川沿いのお店で食事を楽しんだり、観光遊覧船「とんぼりリバークルーズ」に揺られたり。光と影が織りなす魅力的な風景が発見できるかもしれません。

【日時】毎年7月～8月
【場所】道頓堀川・とんぼりリバーウォーク

Photo KEIKO AOI

1月　2月　3月　4月　5月　6月　7月　8月　9月　10月　11月　12月

引き合う力は、地域の活力。
難波八阪神社綱引神事

太さ30cm、全長約25m。縄をより合わせて大蛇に見立てた大綱が作り上げられると、二手に分かれて繰り広げられるのは勇壮な綱引き――。難波八阪神社の祭神で、八岐大蛇退治で知られる素戔嗚尊の威徳を仰ぎ、地域振興を祈願する年頭恒例の神事です。

起源は古く、稀代の歌舞伎脚本作家、近松門左衛門作の「平家女護島」にも描かれたことから、江戸中期ごろから大阪を代表する行事の一つだったようです。明治の一時期に途絶えたこともありましたが、見事に再興。現在は大阪市の無形民俗文化財にも指定されています。

綱引きの後は、大綱を担ぎ上げた氏子らが「難波の綱引きヨーイヨイ」の掛け声に合わせて、神社周辺を巡行します。そこはかとなく漂う素朴さが、地域の絆をもより合わせているようです。

【日時】毎年1月第3日曜日
【場所】難波八阪神社(大阪市浪速区元町2-9-19)

人気歌舞伎役者が、水上で顔見世。
船乗り込み

戎橋の南詰、大阪松竹座で始まる七月大歌舞伎の前触れとして行われる「船乗り込み」。色とりどりの幟や提灯で飾られた船に乗り込むのは、当代きっての人気役者たちです。一行は大阪市中央区の八軒家浜から出発し、照りつける日差しの中、東横堀川を巡り道頓堀川へ。

「松嶋屋！」「成駒屋！」、戎橋の上に陣取った歌舞伎ファンから次々と声が掛かると、役者たちも手を振って笑顔で応えます。かつて道頓堀川沿いに並んだ5つの劇場「道頓堀五座」が賑わった芝居街の記憶が重なるかのよう。風情溢れる夏の風物詩です。

【日時】毎年6月末頃　【場所】道頓堀川～大阪松竹座

ミナミのルーツ、道頓堀川が会場。
道頓堀リバーフェスティバル 他

道頓堀川の水上ステージや遊歩道などを会場に、音楽・ダンスやグルメなどを楽しめるお祭りは例年春(GW)、夏(7月初旬)、秋(10月中旬※令和4年は11月中旬)に開催されます。中でも秋の道頓堀リバーフェスティバルは文楽、落語、上方舞や和太鼓などの伝統芸能から、お笑い、グルメ、JAZZ、ダンス、よさこいまで大阪のエンターテイメントが集まる大阪最大級のフェスティバルです。

【日時】春、夏、秋　【場所】道頓堀川周辺

なんば戎橋筋商店街・歳時記

商店街が結ぶ、ご縁と福。

街の心をひとつにし、お客様をお迎えする。
ご縁を育み、福を呼ぶ、さまざまな知恵と工夫。
1年を通じて、商店街を舞台に繰り広げられる多彩なイベント。
えびす顔の幸せ満ちる、商店街のイメージアップ戦略。

ご縁の街に学ぶ。福ある街で遊ぶ。 なんば戎橋筋商店街体験博

マイ天ぷらづくり講座

着物でミナミ散歩

似顔絵の講座

道頓堀川の遊覧（2019秋）

大阪の出汁の講座
（2021は感染対策のためオンラインで実施）

戎橋橋洗い

歴史を積み重ね、個性を際立たせてきた戎橋筋商店街。その魅力をあますところなく体験し、体感していただこうと始まったイベントが「なんば戎橋筋商店街体験博」。新しいお店も老舗も協力して生み出すプログラムは多彩で、講師は社長や店長自らがつとめます。

「お店の技体験」では、老舗の技が生きる天ぷら作りに、名人秘伝の豚まんや小籠包作り、運気を呼ぶ篆刻彫りなど。似顔絵体験や珈琲講座。「まち歩き体験」では、ミナミ名店まち歩きや着物でミナミ散歩、なんばスイーツ食べ歩きなど。「まち魅力体験企画」では、映画興行発祥の地での映画試写会や歌舞伎講座、道頓堀川遊覧、OSK日本歌劇団の春の踊りを親子で観劇など。

そして、戎橋丸洗いは、まち人と市民と企業、行政が一緒になって大阪の名所を磨きあげるプログラム。

一人でも、ご家族やご友人とお二人連れでも参加できる、街そのものを会場にした博覧会のような趣。体験博は2010年からスタート、春・秋に開催、2020年秋には20回記念を開催、これまで延べ4万人弱のご応募と1万人を超える方々の参加を得ています。

「平素できない体験ができた」「今度はお店を訪れます」、そんなお声も多数寄せられます。店とお客様のご縁がより強く、より深くつながるイベントとして確かな成果を収めています。

2020年と2021年の春は感染症のため大半のプログラムは中止になりましたが、オンラインによる新しい展開も。たとえば、マイ天ぷらづくりでは大寅蒲鉾の命のすり身を参加者のお宅に送りオンラインで天ぷらづくりにチャレンジ。お陰で揚げたての味を楽しめました。

冬のミナミの夜を彩る
「大阪ミナミ光マッセ」と幸運を呼ぶ縁起ものイルミネーション

縁起物イルミネーション

御堂筋イルミネーション

御堂筋イルミ2019では
なんば駅前に巨大フォントが出現

大阪・光の饗宴は、水と光のまちづくりを展開する大阪のビッグイベント。そのミナミエリアのプログラムが「大阪ミナミ光マッセ」。これにはミナミの商業施設が趣向をこらしたイルミで参加、御堂筋イルミと一体に、街の風景はぐっと華やぎます。

ここに戎橋筋商店街も参加、今宮戎神社の参道に由来する商店街であることから、お客様や商店街の吉兆開運を祈願してモチーフとして選んだのは縁起物。シンボルキャラクター「えびたん」をはじめ、願いごとを唱えながら振ると叶うという打出の小槌（こづち）、右手を上げて金運を招く招き猫、七転び八起きの達磨と合格祈願の絵馬、福徳円満 を招く七福神が乗った宝船、「めでたい」鯛が仲良く泳ぐ夫婦鯛など。七つの縁起物が商店街を歩く皆様にアーケードから福を降らせます。

デザインは、御堂筋イルミネーションをはじめ日本各地の都市の明かりプロジェクトを手がける照明デザイナーの長町志穂さん。最新のLEDを導入して省電力化へも配慮をしながら、美しい光溢れる商店街として、訪れる人々に忘れがたい印象を刻み、何度も足を運びたくなる情景を作り出しています。